

教育研究所での研修

所長講義



研究所では、年間5回の所長講義と、研究所の所員・研修員で行われる年23回の1年次テーマ研究会、そのテーマ研究会に向けた研修員同士の学び合いの場であるミニテーマ研究会などを行っています。

また、月に1回の割合で、現場に戻った2年次生の実践に学ぶ2年次テーマ研究会にも参加して学び合っています。

3年目の研修生は、6月から7月にかけて、それまでの2年間の研究や実践をまとめ、県内4会場をまわって研究発表会を行います。

本年度の所長講義（使用テキストおよび参考資料）

第1回、第2回 『現代の教師論』

第3回 『子どもを「人間としてみる」ということ』

第4回 『「子どもがケアする世界」をケアする』

第5回 『道徳における規範とケアの相克』

一年次テーマ研

第1テーマ：教師と子ども、子ども相互の関係づくりをどうすすめるか

第2テーマ：子どもの学びをどのように充実させるか

第3テーマ：子どもの願いにたった授業づくりをどうすすめるか

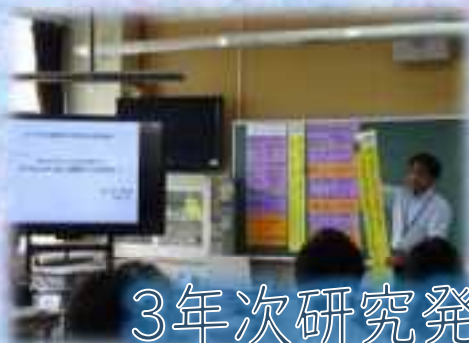


テーマ研



テーマ研究会では、過去のそれぞれの実践してきた授業の映像や授業記録から見える子どもの姿から、子どもがどのように学ぼうとしているかや、どのように関わろうとしているか、子どもの願いは何かといった視点で、それぞれがレポートを作成し、そのレポートに基づき、検討が行われます。

所長をはじめとした研究所所員、研修員が互いに意見を出し合い、「振り返り」と「学び合い」を通して、「子どもが学ぶとはどういうことか」を問い直しながら研修を深めています。



3年次研究発表

このほかにも、2年次生の実践の参観や、現場の授業研究会への参加、資料の読み合わせ、淀川遠足などを行い研修を深めています。

感官を陶冶する～淀川茂重先生から学ぶ～

大正時代、長野県師範学校附属小学校の「研究学級」を担当された淀川茂重先生の著書『途上―研究学級の経過―』をもとに、当時行われた真の教育を求めた実践に学びました。



淀川先生の教育の歩みを自分たちでも実感し研修するために、「淀川遠足」と称して、5月に善光寺から頼朝山へ遠足に出かけました。善光寺から往生寺、そして頼朝山へと、『途上』の中に登場する子どもがたどった道や景色、出会ったものや考えていたことに思いを巡らせながら、歩きました。



眼下に広がる
善光寺平を
眺めながら

